

令和3年度長官所長会同進行予定

● 10:00～15:45

協 議 事 項	意見表明庁	時 間	備 考
最高裁判所長官挨拶		10:00～10:15	15分
1 裁判所の紛争解決機能を全体として高めていくための司法行政上の方策について			
(1) 民事訴訟手続のIT化に向けた検討が進められているが、基本的な意見交換の場として認識されてきている「部」での議論を通じ、ITツールの活用にとどまらない目指すべき裁判に向けた運用改善を進め、裁判所の紛争解決機能を更に高めていくに当たって、現状にはどのような課題があるか。刑事や家裁の事件分野における現状はどうか。	広島地裁（永谷） 徳島地家裁（齋藤） 新潟家裁（園原）	10:15～12:00	105分
		(12:00～13:00)	(昼食)
(2) 「部」は、事件処理等を通じた裁判官の成長支援の場でもあるが、前記(1)の課題に関し、「部」における目指すべき裁判に向けた運用改善の取組が進展していないのであれば、そのことが「部」における裁判官の成長支援の妨げにもなっているのではないか。コミュニケーションの減少など新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されるなか、成長支援という観点から「部」の機能を考えた場合、上記の点も含め課題として考えられることはないか。部の機能を補完する庁としての課題はないか。	大阪家裁（提出時奈良地家裁）（森）	13:00～14:00	60分

<p>(3) 「部」での議論を、個別の事件処理にとどまらず、(1)のようにその前提となるような目指すべき裁判の姿についての共通認識の形成や技法の継承に向かわせ、審理・判断の説得力や社会的通用性の向上等に広げ、更に活性化していくためにどのような方策を講じ、所長、高裁はどのような役割を果たしていくべきか。</p> <p>「部」における成長支援、</p> <p>「部」を超えた庁としての成長支援という視点で所長、高裁はどのような役割を果たしていくべきか。</p> <p>とりわけ、これらの課題への対応において所長がその役割を十分に果たすためには、裁判官の職権行使の独立に配慮しつつ、積極的な役割の果たし方が期待される局面が多くなっているようにも思われるが、いかに考えるべきか。</p>		<p>14:00～15:30</p>	<p>90分</p>
		<p>15:30～15:45</p>	<p>15分(総括)</p>

● 16:00～17:00

事務的協議事項	意見表明庁	時 間	備 考
<p>2 組織的に対応すべき事項に関する所長の役割</p> <p>(1) 今後の社会状況の変化に対応した裁判所の運営を図っていくために取り組んでいる諸課題の整理と自律的・主体的な検討を促していくための方策</p> <p>ア 社会状況の変化に対応するための方向性と各施策の結びつきについての理解の実情とそれを踏まえた所長の役割</p> <p>イ 施策の一つである書記官事務に関する様々な取組の位置付けの理解の実情とそれを踏まえた自律的・主体的検討の促進策</p> <p>(2) コロナウイルス感染症に対する対応が長期化する中、各地域の弁護士会、検察庁、法テラス、報道機関等との意見交換を継続的に行っていくための工夫</p>		16:00～17:00	60分